

令和5年度第1回輪之内町総合教育会議

日時：令和5年8月28日

19時00分～

場所：輪之内町役場公室

1. 町長挨拶
2. 教育長挨拶
3. 議事録署名者の選出
4. 協議事項等
 - (1) 部活動の地域移行について
 - (2) 令和4年度評価「輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況報告書」に対する外部評価について
 - (3) これからの小・中学校の在り方について
 - (4) 中学生防災士の輪之内町防災士連絡協議会への参画について
 - (5) 地域行事への中学生の参画について

輪之内町総合教育会議委員

町長	朝倉和仁	教育長	長屋英人
教育委員会委員 (教育長職務代理者)	田中俊弘	教育委員会委員	市橋修
教育委員会委員	市橋肇	教育委員会委員	金森京子

輪之内町総合教育会議事務局

教育委員会 教育課長	野村みどり	教育委員会 幹主	浜田一郎
教育委員会 主任指導主事	近藤法和	参事兼総務課長	荒川浩
総務課長補佐	馬場優子	教育委員会 社会教育専門官	増田浩志

(午後 7 時00分 開会)

○荒川参事兼総務課長 改めてこんばんは。

今日は、令和5年度第1回輪之内町総合教育会議ということで御案内申し上げましたところ、定刻前でございますが、皆さんおそろいでございますので、早速始めさせていただきたいと思っております。

お手元に配付の次第に沿って進めさせていただきたいと思っております。

1. 町長挨拶

○荒川参事兼総務課長 1番、町長挨拶ということで、朝倉町長が皆様に御挨拶を申し上げます。

○朝倉委員 どうも皆さん、こんばんは。

第1回の総合教育会議ということで、教育委員の皆様方には日頃から大変御苦勞をおかけしております。厚くお礼申し上げます。

委員さん、私、今日初めてお会いする方がいるものですから、少し自己紹介というか、昔話をさせていただきたいと思っております。

たしかもう20年近く前、県にいたときに、前の梶原知事さんが3期やられて、4期目早々ですかね、人づくりをやりたいと。

多分にあったようで。

私、実は企画課の人づくり担当という配属されまして、要はここで何をやるかということ、知事部局で教育をやりたい、ということでした。当時、梶原さんは全国知事会長をやるような方で、とにかく新しいことをやりたいということで、いろいろありまして、今こういう首長と教育委員さんとの総合教育会議ということで、改めてどっちがどっちということではなしに、やっぱりオール輪之内、オール安八でやっていくために、やっぱりこういう形の会議があるのかなというようなことで、非常に隔世の感があります。

その当時、私何をやっておったかということ、ちょうどノーベル物理学賞を取った小柴さんという方が見えまして、小柴さんが子供たちが夢を持って取り組んでいかなあかんということで、「夢のタマゴを持つ運動」というのをやりましょうと、何となく正直突拍子もないようなことを言われたなどは思いつつ、今から思うとやっぱり今、非常に将来に向けて、未来に向けてなかなか難しい時代ですので、まさに今の子供たちこそ、そういった夢の卵を持って未来に向けて元気にやっていると、そういう子供が1人でも2人でもこの輪之内からできてくるといいなというようなことで、ちょっと長くなりましたけれども、そんなふうで、私個人的には教育というか、人づくり、子づくり、そんなことで考えておりますので、またいろいろと委員さんの御意見も伺いながら、それらに取り組んでまいりたいと思っておりますので、どうかよろしく

お願いいたします。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

2. 教育長挨拶

○荒川参事兼総務課長 続いて、教育長挨拶ということで、長屋教育長が御挨拶を申し上げます。

○長屋委員 皆さん、こんばんは。

本日は、夜分にもかかわらずお集まりいただきましてありがとうございます。

小・中学校では、夏休み中に寺子屋事業とか、未来塾とか、いろいろそういう行事を行ってきましたが、無事、寺子屋にしても割と好評のうちに終わることができてよかったなというふうに思っています。

研修事業につきましては、鹿児島派遣事業、小学校、それから中学校のカナダ派遣事業、こちら、特に中学校のほうは台風の影響でいろいろとトラブルもありましたけれども、何とか両方とも無事に終わることができてよかったなというふうに思っております。

今日で夏休みが終わりなんですね。でも、あしたは2学期の始業式じゃないと。何でかという、2学期制を導入しているからということなんですが、あしたからいよいよ前期の締めくくりのスタートという感じになってくると思います。

特に小学校では、10月7日のふれあい運動会に向けて、それから中学校では、期末テストとか1・2年生の宿泊研修、3年生の修学旅行に向けての本格的な取組が始まるということになると思います。まだまだ新型コロナウイルス感染症、収まりませんし、それから熱中症対策も十分に取りながら取組を進めていきたいなというふうに思っているところです。

本会議についてということなんですが、本会議は天津のいじめ事件をきっかけに地教行法が改正されまして、その柱の一つとして、総合教育会議を全ての地方公共団体に置くというふうに明記されました。要するに、首長と教育委員会が連携を図りつつ、より民意を反映するように、首長と教育委員会の協議・調整の場とするというものです。両者が方向性を共有して、一致して執行に当たるということが可能になったということになっております。本会議が今後の輪之内町の教育の羅針盤として方向性を示せるといいなというふうに思っております。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

3. 議事録署名者の選出

○荒川参事兼総務課長 続いて、議事録署名者の選出でございますが、私のほうから指名させていただきます。よろしゅうございますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○荒川参事兼総務課長 それでは、今回は田中俊弘委員と市橋肇委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

4. 協議事項等

○荒川参事兼総務課長 それでは続いて、協議事項に入ります。

1番、部活動の地域移行についてを増田先生からよろしくお願いたします。

○増田教育委員会社会教育専門官 お手元の本日のレジユメ、表紙をはねていただきますと、輪之内町における「休日等の部活動地域移行」に係る経緯という資料があるかと思しますので、それを御覧いただきたいなというふうに思います。

まず、これまでの経緯を簡単に説明させていただきます。

昨年度、この部活動の地域移行に関しましては、教育委員会の主任指導主事である加納先生が担当してみえました。

国が地域移行を進めていこうという話題を出して、それを受けまして輪之内町では、7月から9月にかけて、そこに示したように3回検討会議を持ちました。地域移行をしていくに当たって受皿をつくらないといけないので、当初は輪之内スポーツクラブを想定しておりましたが、輪之内スポーツクラブの理事会とか運営委員会で、国の方針とか県の方針、輪之内町としての考え方等、説明させていただきましたが、色よい返事はいただけませんでしたので、最終的に昨年度の秋までに、実際には輪之内町の地域学校協働本部が受皿となって、運営を具体的にさせていただくのは輪之内中学校の地域学校協働本部、学校運営協議会なんですけれども、ここに動き出していこうというふうに決まりました。

それを受けまして、秋、10月から昨年度末の2月までの間にそのような会議を経て、県のほうに体制整備事業を受けたいですというふうに希望をしました。

前任者から引き継ぎましたのは、運動系の部活動については、今年度の新チームができる後半、要は9月ぐらいから、文化系の部活動については、楽器や道具等の運搬とか、いろんな問題がございますので、6年度中にめどをつけていきたいという旨を引き継ぎました。

裏面を御覧ください。

今年度に入りましてから私が担当させていただいておるんですけれども、輪之内中学校の地域学校協働本部内に、この部活動の地域移行をスムーズに進めていくためにコーディネーターを配置しました。この方には、輪之内町全体の地域学校協働本部との打合せとか、中学校との連絡調整、特に問題になってくるのが、後ほど説明しますが、社会人指導者をどういうふうに見つけていくか、現在取り組んでいただいている方はいいんですけれども、足りないところ、

あるいはないところについて、どうしていくといいかということコーディネートをいただくために配置しました。

県のスポーツ協会にも同様にコーディネーターが見えまして、西濃地区担当のコーディネーターの方にも、今年度、検討会議等にも参加していただいて、最新の県の方針とか、あるいは近隣の市町の状況等を教えていただきながら進めてまいりました。

7月に行われました輪之内中学校の地域学校協働本部会議におきまして、事務局として考えておりますいろいろな規定とか、あるいは各種様式について提案させていただいて、承認をいただきました。それで、先ほど申し上げましたように、運動系の部活動においては新チームから地域移行していくということを了承していただきました。

県のほうには、当初、補助金をいただけるという想定で事業計画書等を提出しておったんですが、途中から、特に年度またぎのあたりで少し状況が変わってまいりました。

まずは、この運動系の部活動の地域移行を所管しているのが、国のほうはスポーツ庁です。スポーツ庁が、いろんな市町村の地域移行を円滑に進めるために、ランドブレインという会社と委託契約を結んで、国の予算をそこに充てる。今度は、ランドブレインという会社が岐阜県と再契約を結ぶ。輪之内町は、それを受けて、岐阜県と再々契約を結ぶと。要は、国からのお金をいただくために、そういうような契約を結ばせていただきました。

その主な委託契約の内容につきましては、本日の資料の中にありますので、また目を通していただくということで、主に社会人指導者、それから輪之内中の部活動のコーディネーターに支払う報償費、それから社会人指導者の方に入ってください傷害保険、それから消耗品等を今年度については要望して、契約を結ばせていただきました。

もう一つ、岐阜県教育委員会が出しておりますガイドラインというのがあります。これも冊子なんですけれども、資料として2つ目につけさせていただきます。

そこには、例えば平日の部活動、現在行われております放課後に行っている学校の顧問教員がついてやる部活動ですね。これは週のうちに必ず1日休養日を設けなさいとか、土・日については、どちらか1日は必ず休養日としなさいというようなことがる書いてあるんですけれども、それをまずベースに守っていくこと。

先ほど申し上げたように、実際いろいろな事務的なことを県とやり取りするのは私のほうで、輪之内町の地域学校協働本部として。実際に運営していただくのは中学校の協働本部ということで、先ほど申し上げたように部活動のコーディネーターは、マッハスポーツの菱田さんをお願いしております。菱田さんと、中学校の部活動を総括しているのが辻主幹教諭とそれから校長先生ですので、そこら辺で連絡を密に取り合ってくださいながら、社会人指導者の選任や何かをしていただきたいというふうをお願いしているところです。

基本的には、9月、改めて社会人指導者として登録していただいて、輪之内中学校の地域学校協働本部で認めていただいて、学校長名で委嘱をしていただくというふうな手続を踏んでいくことになります。

また、登録された社会人指導者の方には、実績簿を毎月ごとに出していただき、債権者登録もしていただいて、私のほうで手続をして報償費をお支払いしていくというふうな流れになっています。

社会人指導者の中には、例えば女子バレーボールを見ていただいている加納先生とか、サッカーを見ていただいている中原先生、現役でほかの学校の教員の方が見えますので、そういった方には兼業届をそれぞれの学校の校長先生に出していただいて、その校長先生がまあ仕方ないやろうと認めていただければ登録できると、いやそれはどうもならんぞということになるとまた話が変わってくるので、その辺りをコーディネーターの方、それから中学校の校長先生や部活動担当の主幹教諭と私と、それから保護者会の代表の方と今後協議していかないかなかなというふうに思っています。

明日、以上のようなことを新しいチームの保護者会の代表の方々に説明する場を設けていただきましたので、私のほうから今のような話を説明させていただきます。

9月に入りましたら、今度は社会人指導者として登録していただいた方々に今のような話をさせていただく会議を設定していただくように、中学校のほうにお願いしてあるところです。

非常に簡単な説明なんですけれども、以上で私のほうからの説明は終わらせていただきます。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

ただいま部活動の地域移行についての説明がありました。何か御質問とか御意見があれば、どうぞ。

○市橋（肇）委員 もともとの趣旨として、例えば今お名前が上がった中原さんでしたっけ、それから加納先生、この両先生の負担というのは本当に軽減されたことになるのか、従来どおりということになるのか、この辺は客観的にどう評価するんですか。

○増田教育委員会社会教育専門官 まず、この部活動の地域移行の話が出てきたところの幾つか要因があるんですけども、そのうちの一つが顧問教員の負担を少しでも軽減していこうということなんです。

これまでも放課後部活動については、顧問教員がつくと。ところが、平日の夜間であったり休日の部分については、できるだけ社会人指導者の方、保護者の責任においてやっていただいとというふうにお願いはしてきたんですけども、なかなかそうばかりは言えないので、やっぱり休日も顧問教員がつかなければならないという実情があったのは事実です。先ほど名前を上げたお二人の先生につきましては、非常に指導熱心ですので、それが負担になっているとい

うふうには考えてみえませんが、そういう顧問教員の方ばかりじゃないので、放課後部活動すら負担に感じてみえる、要は自分が一回も指導したことがない種目であったりということになると厳しいので、できるだけ夜間と休日については先生方がつかなくても済むようにしていきたいということで取組が始まったというふうに理解しています。

評価につきましては、まだ始まっていないので、じゃあどういうふうにしていくかということなんですけれども、なかなか難しい部分がありますが、まずはやってみてというところです。

○市橋（肇）委員 恐れることは過重労働にならないことということに尽きると思うので、運営の中で常にそうした先生、従来と変わらない指導をなさる先生についてはフォローアップして、評価も的確に行うようにしていただかないといけないかなと。万が一にでも病気になったりなんかする、精神的な負担を感じるということになったら身も蓋もないという話になりがちなので、くれぐれもそこら辺は危機管理としてうまく運営していただきたいなと思いますけど。

○荒川参事兼総務課長 どうぞ。

○長屋委員 今回の件なんですけれども、例えば中学校の教員が休日部活動をやると、それは時間外勤務に入ります。例えば社会人として、ほかの学校に勤めながらも例えば輪之内中学校で指導してくださる先生も、その指導時間は時間外勤務時間に含めるということで、過労死ラインとか45時間を超えないようにという、そういう管理は一応学校ごとの校長のほうで管理ができるような体制にはなっているんですね。

○増田教育委員会社会教育専門官 はい。先ほど申し上げたように、兼業届を出したときに、いや、これを認めると、例えば、名前を何回も出して申し訳ないけど、加納先生、毎月90時間になってしまうやんと。一応上限45時間までとかいろいろ言っている中で、これは倍以上で、これはまずいと学校長が判断されれば認められないことになりますので、せめて月に何時間までとかという限定はついてくるかなとは思いますが、うんなんですけれども。

○市橋（肇）委員 そうすると、月に何時間そういう指導に関わるかというのは、個人個人で違った時間数で管理していくことになるんですか。

○増田教育委員会社会教育専門官 はい。先ほど申し上げたように実績簿を出していただいて、これが適正化どうかというのを、一月では判断できませんけれども、何か月かたったときに、ちょっとやり過ぎ、やり過ぎという表現もよくないですね、多過ぎるんじゃないとか、それを例えば5人の社会人指導者の方、登録していただいて、ローテーションで大体均等になるように分けていただくとか、そういったことを助言していくのが私の役割かなというふうに思っております。

○市橋（肇）委員 よく関わる時間をどこに定義するかというのがあって、例えばどこかへ休日なんか練習試合に行くから、それに随行するという話になれば、こちらから出発していく時間

から終わってこちらへ引き上げてきてからの時間まで拘束されるとか、何かそういう時間の管理ということもちょっと厳密に考えていないと、後でみんな個々人に時間管理ということが曖昧になりがちではないかと思しますので、そこは再確認をしていただいて、規定していただくといいと思うんですけど。

○増田教育委員会社会教育専門官 分かりました。

○荒川参事兼総務課長 そのほか何かよろしゅうございますか。

(挙手する者なし)

○荒川参事兼総務課長 それなら、次に行きます。

増田先生はもう退席されます。どうもお疲れさまでございました。

○増田教育委員会社会教育専門官 すみません。これで失礼します。またよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○荒川参事兼総務課長 続いて、2番、令和4年度評価「輪之内町教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況報告書」に対する外部評価ということで、お願いいたします。

○浜田教育委員会主幹 よろしく願いいたします。

お手元に、令和4年度評価という具体的な数字が載っているもの、それから外部評価委員である田中耕先生にいただいた外部評価についてという2つの資料がありますので、それを見ながらよろしく願いいたします。

それでは、外部評価をいただきましたので、教育委員会の活動状況、学校教育、社会教育の3点について説明させていただきます。

まず1点目の教育委員会の活動状況についてです。

議事録から、コロナ禍であっても毎月の定例会議として順調に開催され、教育行政に関した意見交換が活発に行われていることが分かります。また、町の広報紙「広報わのうち」に教育委員会だよりを掲載し、住民との接点をつなぐよい機会になっていること、総合教育会議を年2回開催し、教育行政と地方自治行政の整合性や連携をうまく取ろうとしている点が高く評価できるということです。

西濃地区の連絡協議会総会を当町で実施できたこと、中でも当町が講師となり研修会を開催し、先進的な事例として輪之内の教育を紹介できたことは意義ある機会であったと評価できるということです。

今後も地域の次代を担う児童・生徒の教育、生きがいのあるまちづくりのための教育ができるように、課題克服のためにPDCAに期待します。

次に、2点目の学校教育についてです。

教職員は、日々の業務に追われ、研修を受け、自己研さんする機会が少ないのではという点

を心配します。そのため、学校教育の要である教科指導の評価が低下していることを危惧します。児童・生徒が自ら主体的に学習できる動機づけ、方向づけを重視することが大切です。令和5年度から、各校、研修主事が配置されることになり、主体的な研修を行い、教員としての力量が一層向上することを期待します。

I C T教育については、情報活用能力を育成する場であり、情報リテラシーを学ぶ場でもあります。しかし、長時間使用による弊害も現れているところです。適切な休養と情報機器との向き合い方の指導も気になるところです。

その他心配するところとして、教職員の勤務時間についてです。全国的な問題でもありますが、時間内に集中的に業務消化できる体制や意識の改革が必要であると感じます。2期制の導入、学校行事の見直し、教員同士の連携強化、I C Tの効果的活用により、縮減化が図られることを期待します。

各小・中学校の校長先生及び教育委員会の考察資料には、一時期の危機的な状況を脱したものの、いまだ十分な活動ができていない部分もあるようです。しかしながら、各校が様々な活動を工夫し、できる方法で効果的な活動を行ったことに好感が持てました。

こうした成功体験による達成感や自己の自信になり、生き抜く力を育むことにもつながると考えます。多くの児童の「学校が楽しい」となっているのは、充実した学校生活となっていることが示されています。

しかし、中には様々な理由から学校へ行きづらい児童・生徒がいることも確かです。そういった児童・生徒を出さないように、教育相談でのサポート、同級生同士のつながりによる学校との良好な関係の維持に期待します。

最後に、社会教育についてです。

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染対策として各種行事が縮小、中止され、十分な活動ができなかったとされ、最近6年間の評価の推移を見ても大半がB判定となっています。

しかしながら、各領域の事業は主催者、対象年齢、開催目的、開催形式、開催場所などがまちまちで、内容も多岐にわたっています。これらの多様な形態の領域を横並びにして一律に評価することは困難な状況にあります。

「成果と課題」に示されている内容を次年度以降引き継ぎ、コロナ禍終息後、スポーツ、文化、芸術、世代間交流を通じて地域の活性化に大きく寄与できることを期待しますとのことでした。

以上で説明を終わります。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

これについて何か御意見、御質問等あれば。

よろしいですか。

○田中委員 意見はありません。

○荒川参事兼総務課長 じゃあ、これはこれで。

次に、3番目ですね、これからの小・中学校の在り方についてということで、教育長、よろしいですか。

○長屋委員 よろしくをお願いします。

これからの小・中学校の在り方ということですね。いわゆる少子化がどんどん進んでいって、学校の子供の数が減っているという状況の中にあって、子供にとって最適な教育環境はどうあるべきなのだろうかということを考えたいということです。

別とじの資料ですが、昨年の10月の定例教育委員会で作らせていただいた資料が一番上に出ています。学校の統廃合についてというものです。

児童・生徒数の推移予測ということで、別紙参照となっておりますが、3ページのほうを見ていただきますと、前は令和11年までしか数字が出ておりませんでした。今回ちょっと12年を足しました。12年につきましては、新1年生のところの人数は、今年度の出生者と、それから母子手帳を持っている、3月27日までに出生を予想される、予測される子供の合計ということになっております。ほぼ合っているんじゃないかなというふうに思います。

福東小学校につきましては、令和11年、これは要するに今、令和4年度の出生者数が9人ということだったんですが、来年度は12人というふうに予想されているので、ちょっと持ち直したかなと。

仁木小学校についても17人というふうになっておりまして、令和11年においては福東小学校を抜いて一番人数の少ない学校になっていたんですけど、またちょっとここで盛り返して2番目になるだろうというところですね。

それから、大藪小学校につきましては、令和12年、19人の予想ですので、またちょっと減るというふうになっております。

ちなみに、この令和12年の予測の合計を大藪小学校の一番下のところに書いておきました。令和12年で、もし小学校を統合すると、1年生から6年生までがこういう人数になって、全校児童が338人になるだろうということで、35人学級ですので、どの学年も全て2学級ということが予想されます。

中学校については、もうちょっと先まで予測できるので、既に生まれている子供の数で、こういうふうになりますと、やはり令和13年にオール2学級になる予想になっております。

ちなみに、複式学級というのは2学年とか3学年の複数の学年を1つの学級で教えるという制度なんですけれども、こちらについては、小学校では16人までで1学級、一番下に書いてあ

りますが、16人までで1学級、ただし1年生を含む場合は8人までと。中学校の場合は、8人までで1学級というふうになっております。

この推移予測を見ますと、令和12年の段階でも複式学級、2学級足して16人以下になるという学年は、一応予測はされないという状況になっています。

戻っていただきまして、2番、小規模化の影響ということで、やっぱり単学級ということで、クラス替えができずに人間関係が固定化しやすいとか、多くの考えに触れることができないので切磋琢磨するということがしにくいということがあります。

2番の解決策としては、学校統合とか、統合する場合の一つの選択肢として義務教育学校の設置ということが考えられるということがあります。

大きな3番ですけれども、学校統合のメリット・デメリット、先ほどもちょっと言いましたが、それ以外に統合するメリットとしては、運動会・文化祭・修学旅行といったような集団活動ですね、こういうものの教育効果が上がると。体育の球技、音楽の合唱・合奏、こちらも同じですね。それからデメリットとしては、地域から学校がなくなるということが、やはり学校と地域の関係の希薄化とか、地域のより衰退につながっていくんじゃないかというふうな考えもあります。

ちなみに、近隣の学校で、令和3年度に関ヶ原町、それから6年度には大垣市の上石津地区、海津市の旧海津町で学校統合が予定されていると。

統合する場合の一つの選択肢で義務教育学校というのがありますが、これは小中一貫校と何が違うのかということなんですけれども、小中一貫校は、カリキュラムは小学校、中学校、9年間を見通したカリキュラムということになるんですけれども、系統性を意識したものということになるんですけれども、あくまで小学校、中学校は別組織ということになります。ですから、それぞれ校長がいて、職員集団がいるというふうになるんですけれども、義務教育学校は、小学校、中学校の9年間、これを一つの学校として見て、9年間の学校ということなので、校長も1人、職員も1つの集団ということになります。

それによるメリットの一番大きいのは、この4つ目の丸ですね、中学校で今、免許外で指導している先生が非常にたくさんいます。何でかという、全部の教科をそろえることができないから。学校規模の教員配当では足りないということですね。だから、免許外指導をしている教員が結構います。

浜田先生、どのぐらいいましたっけ。

○浜田教育委員会主幹 今、技術、それから家庭科、それからあと国語ももう今そろそろ、多分免外になってくるかなと。やっぱり5教科は免外ではないように努力はするんですが、やはり芸術科目はもう免許外というか、そもそも大学に技術、美術の学生がいないというところでは

ので、なかなか今、中学校、厳しい状況であります。

○長屋委員 全教科といっても、例えば国語とか時間数の多い教科については、1人では全学級を教えられないので、必ず2人、3人、3人は要りますよね。そういう感じになってくるので、全教科そろわないということがあるんですけど、義務教育学校になると9年間で1つの学校なので、要するに小学校の教員と中学校の教員を合わせた数の職員集団プラスアルファいるので、誰かは免許を持っている人がいれば、いわゆる中学校の課程のほうに教えに行くことができるということで、免許外指導の解消ができる。これは一番大きなメリットではないかなというふうに思います。

あわせて、小学校の高学年でも、普通の学校でいうところの小学校高学年でも教科担任制ができると、専門性のある先生に教えてもらえるというメリットがあるということがあります。

裏へ行きまして、輪之内町の現状と見通しということなんですけれども、今、小・中学校、先ほど中学校部活動の地域移行の話で、地域学校協働本部のほうでやってくださっているという話がありましたが、小学校においてもそれぞれコミュニティ・スクール、地域学校協働活動に取り組んでいて、コロナ明けということで活動がまた活発になってきているというところと、それから各小学校、大規模改修を行いましたので、まだ耐用年数が延びたというところがあります。そういったことを考えたときに、当面は小規模校のメリット生かした教育を推進していくことが望ましいのではないかなというふうな話合いになりました。

ただ、今後のことを考えていくと、学校統合は避けては通れないかもしれないということで、一つの目安としては、複式学級ができるのではないかなということが見込まれたときに、検討委員会を立ち上げて検討していくと。ただし、それも学校統合ありきではなくて、少人数を生かした教育のほうがいいということであれば、そちらを推進していくということで話合いを今後も続けていく必要があるというふうに話合いはまとまりました。

ちなみに、4ページのほうを見ていただきますと、小・中学校・こども園の施設の状況ということですが、それぞれの校舎、体育館、プールの建築年と、それからどれだけ築年数がたっているのかと備考ということで書かせていただきました。

小学校においては、40年以上築年数がたっておりますが、大規模改修、それから仁木と大藪については耐震工事が済んでおります。福東はなぜ耐震工事をしていないかというと、建築年が昭和58年なので、新しい耐震基準に適合した建築になっているので福東小学校はやらなくてもいいと。56年の7月かどこかで変わってきていますので、そうなっているということです。体育館については、ここにあるように、割と新しいところもあれば、でも30年以内ですね。プールにつきましては、これはもうちょっとかなり年数がたっている状況になっております。

輪之内中学校については、南舎ができたのが昭和46年ということで、もう52年たっている。

ただし、63年大規模改修、平成16年耐震工事等行っていると。北舎については、全く何にもしていないなくて42年が経過している。体育館は新しいですね。プールは21年。ただし、輪之内中学校のプールはステンレス槽なので、メンテナンスがほとんど要らないということで、これは長くもつだろうということです。小学校は何かビニールのシートみたいなのを張ったやつなので、毎年破れて水が入ったりして、補修をしている状況です。

それから、ちなみにこども園なんですけれども、こども園についても築40年以上たっている。耐震工事が福東と大藪は終えている。仁木は、はてなと書いてありますが、耐震工事をしていないそうです。これも56年の何月か以降だったので、クリアしているの、これははてなをちょっと消しておいてください。

○田中委員 必要ないわけやね。

○長屋委員 はい。ということです。

ちなみに、下の欄外に書いておきました。鉄筋コンクリート造りの学校施設、校舎とか体育館の法定耐用年数は47年というふうになっています。ただ、物理的な耐用年数はこれよりも長く、例えばいろんな長寿命化工事とか、そういうのを行っていけば、七、八十年はもつというふうに言われています。

ちなみに、プールの耐用年数は30年というふうにされているということだそうです。こういう状況があり、プールはちょっと危ないということですね。

それから、中学校も北舎を大規模改修するのか、あるいは建て替えをするのかというところなんですけれども、そういった判断も必要になってくる。

あわせて、こども園も老朽化しているので、こちらの改築するのか、あるいは新築するのかといった判断も必要になってくるということで、小・中学校の統合だけではなくて、こういったこともちょっと考慮に入れながら考えていく必要があるということです。

5ページのほうへ行きますと、小・中学校の学校規模ということで、適正な規模、標準としては、小・中学校ともに、真ん中辺に書いてあります、12学級以上18学級以下というふうに、学校教育法施行規則ですね、定められています。ただ、この規則も昭和33年にできたので、当時の1学級には60人ぐらい子供がいて、そんな中で決められたものなので、果たしてこれが今の状況に合っているのかどうかというのはちょっと分からないですけれども、小学校でいうと2学級から3学級というところですね。クラス替えはできるということになっております。

ただ、四角の中にありますように、学校は地域のコミュニティーの核ということなので、教育条件の改善という観点だけではなくて、そういったことも考慮に入れながら、設置者である自治体が判断していきましょう、統廃合するかどうか、あるいは学校を存続させるのかというところですね、それを判断していこうというふうになっております。

6 ページへ行きますと、現在の状況なんですけれども、公立小学校の約 4 割が標準規模、先ほどの12学級ですね、12学級未満になっているというのが約 4 割。

7 ページへ行きますと、中学校の約 5 割が標準規模を下回っているという状況になっています。

ということで、8 ページ、9 ページは、手引の抜粋をちょっと載せておきました。

10ページのほう、ちょっと字が小さくて申し訳ないんですが、一番最後のページです。これは大野町の小・中学校適正規模・適正配置に関するスケジュールということで、令和3年に在り方の検討をスタートして、令和13年が小・中学校再編というふうにロードマップができています。その間、いろんな方針とかを定めながら、真ん中よりちょっと以下にあります内部検討委員会と外部検討委員会、こちらのほうに教育委員会のほうから諮問をしまして答申を受けてと、方向を定めていくというような形を取ろうとしているという状況です。

大野町につきましても、統合ありきではなくて、町民全員でどのような方法が最適なのかということをおもひで考えていきたいと思いますという立場で提案を、この間のシンポジウムにもちょっと行ってきたんですけれども、そこで出された資料というふうになります。違うわ、これはホームページに載っている資料ですね、ということになります。

ということで、教育委員会では一応話を昨年10月にしましたが、これからの教育の在り方について、教育環境の在り方についてですね、どうあるべきかということをお意見いただければいいなというふうに思います。以上です。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

教育長から学校の統廃合についてということで説明いただきましたが、これに対して何か御意見等ありましたら。

○市橋（肇）委員 大野町のこのスケジュールなんかで、一番上に六次総合計画ということで計上しているという話なんです、一番下の児童数とか生徒数なんかは、大野町というのはでかいのか、人数、輪之内に比べれば全然多い、多数であると。にもかかわらず、こういう六次総でそういう考え方を示しているということなんです、輪之内町というのは六次総でここまで具体的な話というのはあまりない。

だけど、教育行政全般に係る今費用とかいったものも、ともするとこれ、申し訳ないですけど、先ほど先生の配置数が足りないんだとか、先ほどの施設の耐久年数をやっているということで、人・物・金の極めて経営的なセンスが必要だということをおっしゃっていることで、教育内容とか、そういったものにあまり関わっていないように感じるので、そういう意味では、行政のほうの考え方はどうするかということも内容とともに私たちも考えていかなきゃいけないし、それから義務教育学校の在り方というものを、これだけいろんな他市町村で義務教育学校化する

るという流れができていて、それに対してどう私たちは評価しておくんだと。

単純に見ると、そういう傾向にあるということだけを言っているだけで、今はね、資料としては、じゃあ自分たちが主体的に考えた場合に、それをどう評価するかという考え方は持っていくべきだろうと。

統廃合に対する考え方は、先生まとめていただいたので、複式学級の有無によって考えていくという一つの目安ができたと思うんですが、じゃあ統廃合するとなったら、どういう形態に持っていくかということは、やっぱりちょっと具体的に検討すべきだと。

体制としては、他市町村がそういう流れになっているから、迎合すれば一番簡単かもしれませんが、それぞれ先ほどデメリット・メリットを言われた、それを反映していくということならば、主体的に輪之内としてもどう考えるかというのをやっぱり議論すべきだろう。

それに伴って、人・物・金、経営感覚をどうするかというので、六次総には間に合わないかもしれないですけど、補足的に追加でそういうものを計上しておく方がいいとか、そういうことになるんじゃないかなと、今さらながら、先生の説明をお伺いして、ちょっとそういうことをニーズとして自分なんかは考えましたけど。

○長屋委員 そうですね。そういうことを話し合っていきましょうということですね。

○市橋（肇）委員 これからということだね。

○長屋委員 はい。

○荒川参事兼総務課長 私からもいいですかね、すみません。

○市橋（肇）委員 はい。

○荒川参事兼総務課長 さっきの4ページの施設の状況なんですけど、これはこれで、このとおりなんですけど、経営戦略課で公共施設の長寿命化計画にもたれた計画を向こう何十年、計画は持っています。幾らぐらいかかるのかとか、全部試算もしてあります。それは随時見直しなんですけどね。

最初、そういった計画をつくりなさいということで委員会を立ち上げて、岐阜大学の先生に入ってもらったり、町内の一級建築士とか、その辺の専門家に来てもらって、随分施設も回っていただいて、今までの工事の経過とかも踏まえて、あと何年もつか、こういうメンテナンスをやればこういうふうにいけるんじゃないとか、一概には言えないけれども、そういうことでということで一応計画はできていますので、その辺のいわゆる横串を一回ちょっと通してみても、さっき市橋さんが言われるように、いわゆる人・物・金の再配分じゃないですけど、経営感覚を持ってやらないと、やっぱり学校統廃合とかって一言で言うんだけど、これはいろんな要素が絡むので、本当に簡単なことではないと思うんですね。

そういったことを、だから総合計画に落とさなアカンと思うんです、これはやっぱり。だか

ら、そういったことをこの中長期的計画の中で、総合計画については見直し期間がありますので、そのタイミングで、やっぱりぱっと取りかかれるようなロードマップを、大野町じゃないですけど、こういうのはあらかじめ何か用意しておいたほうがいいかもしれませんね。大体こういうスパンでやっていくんだよと、何年から始めるとかそんなことじゃなしに、こういうタイミングで何年間かかかりますというぐらいは必要かもしれませんね。と思いました。

○**長屋委員** 大野町の場合は、小学校は6校ありますね。規模的にはまだ小さい学校でも百何十人はいますので、だからずうっと先の、これでいうと令和13年ぐらいかな、先を見越すと、やはり複式学級ができるだろうということ、もう今から考えてというふうで、そんなような形ですね。

○**荒川参事兼総務課長** ここに本当に書いてあるとおりでと思います。やっぱり行政が先走って、計画だけつくって、はい、やりましょうで済む話ではないので、これはやっぱり地域から何か全部巻き込んでいる話になりますので、やっぱり慎重に時間をかけてやるべきだなというふうに思いますけどね。すみません、余分なことを言いました。

○**朝倉委員** この表の下にありますけれども、やっぱりこども園、一応小・中学校は大規模改修が済んだので長もちさせようと思えばさせられるんですけど、じゃあこども園はどうするのかと。こども園も見事に40年、45年で、これから何か計画して何かやると思ったらもう50年です。正直、今、職員面談をやって、ちょうど今、保育士さん、保育園の先生方に面談しておるんですけど、何かありますかと聞くと、皆さん一概に施設の老朽化と言われる。

ちょっと建物の耐久性とか、ちょっとこっちへ置いておいて、やっぱり古くなってくると、いろんなイメージもあまりよくないですしね。恐らく子供さん、保護者の方、それから働いている先生、みんなやっぱり新しいきれいなところがいいというのはありますので、ですからやっぱりそういうこともちょっと考えて、じゃあこども園もどうしようかというようなことも、今、長期計画があるということで、計画はいろいろ立てておるんですけども、じゃあやりましょうというのもなかなか難しいのであれなんですけど、本当に片一方で小学校は大規模改修して、それでもどんどん減っていくんです。必要なスペースって減っていくんですよね。なので、空いたスペースを何かに使えるのかとか、本当にいろいろ考えていくと、何にしてもお金との相談にはなるんですけどね。どこから順番にやっていくのがいいのか、なかなか難しいところですね、本当に。

○**田中委員** 保育園からこども園になるときに考えたのが、あのとき大藪保育園がどんどん増えておったんやね、この頃減り出したけど。そのときに、解決策というて、一つの方法は、統合する方法があるんやね。保育園、こども園は親が連れてくるので、どこにあってもええわけやんね、町内でなきやいかんけれども。統合するという手があるんやね、行政の隠し手としては。

でも、それをもう一回、小学校に今度行くと、分かると、何となく切ないんやね。高山に高山西小学校というのがあって、これが中学校は3つに分かれるそうやね。輪之内としては、だんだんこういうふうになっていくイメージができておるね。こども園を例えばこの辺のところ、田んぼのところをちょっと御無礼して土地を確保したとする。そこへ運んでくださいですから、お母さんがここへ運ぶのもここへ、そう変わらんと理解していただいてやったとすると、これがまた小学校は家から通うので3校と。

これはちょっと総合的に作戦を考えておかんと、何か中途半端なものを造ってしまってもいけないので、考えておかなあかんね。作戦としては、住民が言ってこられたときに、例えばこういう考え方がありますよというのを、こういう帳面の上でも議論しておかんと、ちぐはぐなことを言うことになるので。

○市橋（肇）委員 先ほどの施設としての要求基準というか、保育士さんたちが要求していることが昔と変わっているんじゃないか。

○朝倉委員 そうですね。

○市橋（肇）委員 保育もかなりやるようになっていっていると。それから、幼保園というのはどちらかという福祉関係で、文科省管轄と厚労省管轄の違いがある。だから、基本的に施設として具備すべき施設基準が違うんじゃないかと。だから、基本的にいうと、今要求される施設の在り方というのをきちんと見極めて、僕はもうスクラップ・アンド・ビルドするべきだと思います。

人数が減っているんだから、土地とか建物、教室とかは結構余ってきているんじゃないかと。そうすると、内装を今の要求に合わせたように改装する。片一方はスクラップにして、片一方はビルドし直すという考え方をやらないと、常にリニューアルするという考え方をいろんな公共施設は持つべきだと思います。

一般の企業でもそうだと思いますけど、工場なんかでも時流に合わせてスクラップ・アンド・ビルドしていくわけですから、耐久年数がある程度来たなら、つくっているものも変わっていくとか、つくり方が変わるとか、当然出てくるわけですので。

だから、今の3施設をそのままやっているんじゃなくて、順番に集約するということもあるんですけど、中の施設を今の要求水準に合わせたように一旦改造してみると。それを複数必要とするかどうかということのを再評価するとか、そういうふうに考えておくべきじゃないかなと思うんですけど。

僕がちょっとよく分からないのは、いつも学校と幼稚園と保育所ですか、保育園というか、そういうところの要求ニーズがちょっと違うような気がするんですよ。それから、そういうニーズのほうは今大きくなっちゃっていて、女性の社会参画のために本当に昔では考えられな

いような小さな子を預かるような形になっているわけですから。だから、要求が違うんじゃないかと。だから、施設も当然内容が違うという捉え方をすべきだと僕は思いますけど。

○荒川参事兼総務課長 そのほか。

どうぞ。

○長屋委員 先ほどの大野町の例なんですけれども、大野町はやはり築年数が過ぎて老朽化が進んでいるということで改築を進めなければならないということなんですけど、例えば今小学校が6校あるんですけど、6校全部改築するとすると、要するに子供が減ってきて空き教室がいっぱいあるところの使わない教室まで全部整備し直してやっていくのは、果たして合理的なのかということも検討の土台にあるということがあります。

あと、もう一つ違う話なんですけど、先ほど参事が言われましたけど、経戦でしたっけ……。

○荒川参事兼総務課長 はい。

○長屋委員 のほうで長寿命化の計画があるということなんですけど、輪之内のこども園がどこも40年以上たっているんだけど、何かの資料を見たら、どこかのこども園は令和7年度に改修、大規模改修か知らんをします。そうかと思えば、どこかのこども園は令和十何年というような計画になっていたんですね。ほとんど同じぐらいのときに建っているのに、その年数の差が9年ぐらいあったような気がしたんですけど。その原因とかも何でかなと思いがちちょっと疑問に思っていたので、やっぱり先ほど言われた横軸のその辺りの資料の交流というか、そういうのも非常に大事ななというふうに思いました。

○荒川参事兼総務課長 あの当時、私も携わっておった。一定の基準は最初に設けましたので、こういう例えば鉄筋コンクリート造についてはこういうふうにしましょうとか、鉄骨造りについてはこうしましょうとか、木造についてはもう大規模改修はやらない……。

○市橋（肇）委員 スクラップ。

○荒川参事兼総務課長 スクラップ。ビルドはない。とか、そういうふうに一定の基準はつくって、それで落とし込んできましたということ覚えておる。

○朝倉委員 最近もらった資料を見たらね、本当なら今年か来年ぐらい以降に建て替えとかいつて書いてあった。

○荒川参事兼総務課長 当時つくった計画はそうですよ。ところが、やっぱりもう全然ついてこないの、延伸させておるとのこと。

だから、あれも併せて本当に見直しをかけなあかんですよ、全部が。人数もさることながら、そういった公共施設の計画、そして市橋さんが言われるように、とにかく経営感覚を持って、お金のことを常に頭に入れて、それに対して財政のシステムがどう動くかとか、そういうところまで落とし込んでいかないと、これは危なくてやっておれません。

○朝倉委員 やっぱ最後は危ない、本当に子供が、先生がけがをしないといいなという、やっぱりそういう話になってきますしね。ここで耐用年数も70年、80年、物理的にはもつとなっているんですけど、最近どこの役所でも大抵みんな60年ぐらいをめどに建て直していますし、やっぱりマックス60年ぐらいなのかなというようなところはありますので、それを目指してどういうふうにやっていくという、そのために皆さんに公にして意見を聞いてというやり方をしているかないと、本当に下手をすると間に合わないかなというような感じはします。

○荒川参事兼総務課長 その当時、私の記憶では、普通、輪之内って3つあって3つあって1つというパターンやないですか。それが頭の中にみんなもう刷り込まれてしまう。別に3つを2つにして1つとか、例えばそれをやってみる。どこの位置に持ってくるかとかいう難しい問題はありますけど。だから、そういったことも視野に入れて検討したらどうやというふうなことも言った覚えがあって。そうすると、「はあ？」とか言われたりして、そういう記憶がありますけど。だから、それは今の地域性、昔からのあれにはなじまんのじゃないのかというて、それは感情的にはそうだけど、分かるけれども、なかなかね、そういった……。

○田中委員 さっきの高山西小学校みたいに3つに分かれるとか、それから那加の那加第二小学校と第三小学校か、真ん中に中学校があって、こうやって3つあるよね。歩いて3分か。あの辺のときの議論を地元でやったのを想像すると、大変だったんだろうなと。

うちらは3つでこうやって来ているので、保育園をこども園にしますとって何も難しい話なしに済んでしまったけど、よそは私立の幼稚園があったり、下手をすると公立の幼稚園があったりすると、ぐちゃぐちゃになっているね、何年もかかって。うちらは、すすっと済んでしまったね。あれ、シンプルにつくってあったので3つでひゅっといけたけど、よそのことを見ておると大変やなと思って。大野町なんて、ようこれエイヤーと、これはまだできておらへんのやね。

○長屋委員 まだ、どうするということまで、みんなで決めましょうと。

○市橋（肇）委員 そうそう。

○田中委員 何とかの教育委員の研修会に行ったら物すごく立派にやってみえたけど、あれはまだ机上の空論やね。

○市橋（肇）委員 あと、私思うんですけど、今恵那のほうがやっているでしょう。ああいう物理的な話で困るんだという具体的な私情を持った御家庭がニーズをしっかりと出されるということならば、また違うと思うし、それから1つだけ、昔、さっきの3地区から積み上げていくという考え方の根幹は、そのときの世代の人たちが考えたんであって、世代は変わってきているから、また今再整理すると簡単に変わるかもしれないよと、そう言いたいんです。昔の伝統をそのまま、もう今引き継いでいないと思います。

具体的に言うなら、仁木・福東・大藪という考え方は、輪之内中学校ができた時点でかなりもう考え方が変わってきているはずなんです。輪之内中学校の卒業生も増えてきているから、今さら小学校地区で考え方を守っていくというところへはあまり落ちないんじゃないかなと私は想像します。昔は、そのとき福東・仁木・大藪という、そこに住む有識者の考え方を再整理しながら中学校というのも造ったと思うんですけど、今はもう中学校でみんな一緒になっているんだったら、今さら何という感じ。

それから、輪之内というこの地形を利用した場合、センターに向いてくるというか、どこからも均等な距離にあるような、ここ輪之内役場なんかは造っているわけですから、恵那の話とか何とかに比べたら全然容易な配置。

○田中委員 恵那のことを思うと大変やと思う。この辺やと揖斐川町が大変だわな。

○市橋（肇）委員 そうですよ。そういう山間僻地に比べれば、輪之内は本当に堤防に囲まれておって、輪っかで、中心に対してどこからでも来るといって、中国の小宇宙の考え方、中心サスでいいんじゃないんですか。

○朝倉委員 大野町が10年かけてやると言っていますけど、10年はかからんでしょうね、輪之内は多分、どういう議論をするにしても。

○田中委員 おっしゃるように地域エゴはだんだん減ってきているので、今のこども園を1か所に、仮にやよ、仮にこの辺に造ったとすると、そんなに抵抗はないと思うやね。小学校はひよっとしたら抵抗があるかもしれんけど。

でも、小学校も今のガラガラポンで上手に、一遍、仁木と福東、小さい同士でひっつけてみといたら、やれるかもしれん。

でも、そここのところが将来3校統一したときの仮想空間にしておいて、あんたのところやるよという、有利に働くかなとって上手に地域をくすぐれるかもしれんけど、今の教育長のこの資料を見ておると、ここら辺までやな、今やれるのは。

○荒川参事兼総務課長 だから、教育長もよく議会でおっしゃってみえるのは、いや、思いつきといたら言葉は悪いですけど、そうじゃないと、みんなのところはやっぱり長いスパンをかけて熟慮に熟慮を重ねてやっている計画なので、やっぱり誰か声が大きい人が言って、こういうふうにしようとかという、そんな簡単なものじゃないよというのは常々言ってみえますので、それは今大分浸透してきた、議員にも。だから、じゃあそんなにかかるんなら今からやろうかという気にはなっていますよ。だから、そういった意味では、いい先駆けの資料かなというの。

○田中委員 事あるごとに、区とか村の総会のときに、ちょっと首長さんあたりが、首長さんか、あるいはその区長さんあたりが、先の話話を話題提供するとかいう、こうやってずうっとやって

いかんとかかる。最後はエイヤーでいけるけど。

○金森委員 最近、多度学園、ニュースで言っていました、市長さんが。それで、どうなんとちょっと知り合いの人に聞いたら、大体今のところは小・中合わせると1,000人近くなるので、そんなマンモス……。そんな今のところだと、もう4年後なんですけど、大きい学園で小・中交流とか、逆にできませんよと。だって、3クラスぐらいの学校で、運動会の何か運動場決めや体育館決めとかいうのを取り合いとか。しかも、音楽と技術の関係の先生が入ってくださっておるところやと動かせないし。動かしていいよと、この時間あげますよとって一緒に入ってくださる先生もいるんですけど、そうなっていくと、がちがちのところでは何が交流ができるのという話にもなってる。

○田中委員 ニュースでやっておった仮想で学園をつくるような話。

○金森委員 それで校歌ですよ。校歌をAIで作らしましょうと。市長さんが好きなんですって。

○市橋（肇）委員 AIを。

○金森委員 でも校歌ってね。

○田中委員 思いで作るもんやない、校歌いうて。

○金森委員 そうなんですよ。

○田中委員 思いとか感情とか。

○金森委員 そうですよ。

○朝倉委員 いい校歌を作るでしょうけど、多分。でも、作詞・作曲AIなんて言われたらね。

○田中委員 それでも、このときは作詞、朝倉何がしさんで、学校に対するこういう思いがあったと、だからこの言葉が入っておる、これがいいんだよね。

○金森委員 そうです。子供たちも誇りに思うじゃないですか。

それに、じゃあいないのかといたら、桑名市にも文学作家、児童、童話とか、それから若い子でもバンドを組んでいたりとか、作曲できるとかあるのに、何でAIだと。

○田中委員 ちょっと学校の名前出すけど、大垣北高ってあるじゃん。あそこの愛校歌いうて、森島、お兄さんのほうな、僕らの思いとか、そこのね、作ったというので、輪之内から行った人は誇りを持つわけよ。こういうもんだがな、校歌いうて、思いがね。AIじゃねえぞ、少なくとも。きれいなものを作るかもしれんけど、やっぱり思いだよ。

○朝倉委員 きれいなものは作るんですよ、多分ね。いい校歌は作るんでしょうけど。

○金森委員 もうがっくり。規模的に1,000人に、ちょっと輪之内より多くなるのかな、今の年代はね、もっとすると少なくなりますけど。だから、そんな交流なんて、升が動かせない、授業、できない。そんなところまでできないよというのとか、それから……。

○田中委員 市長さんの考えた頭の中のアイデアは非常に素晴らしいけど。

○金森委員 学校って防災訓練をよくやりますけど、引取り訓練とか。そんな大規模になったら、できない。

○朝倉委員 今の規模やからできるんですよ、多分。

○金森委員 そうそう。大きくなったらいいかもしれないけれども、小学校って1からいるんですよ。1年生なんか本当に細かく何とか地区、何とか地区ってお帰りするんですよ、シールつけて、迷子にならんように。それだけやっていて、じゃあこんな何百人の規模で、それも心配とか。

それから、先ほども市橋さん、荒川さんが言うた人・物・金、ば一つと言われて、お金がないから、とにかく上からば一んと統合という感じになって、すごい町内もめてやってきたんですよ、やっぱり人・物・金、仕方がないことなんですけど、そこに先ほど言われた義務教育の在り方って何だろうとかね、じゃあ輪之内の教育はどんなんと、そこら辺も強く出さないよ。

○荒川参事兼総務課長 そうですね。

○市橋（肇）委員 考え方としてね。だから、何が先かということですよ。

だから、経営企画の人たち、あれなんだけど、戦略、戦術というか、ともすると戦術ばかり考えていて、戦略を考えていない。どこへ持っていくんだかという目標設定が何か曖昧で、その当座当座を生き抜くことの戦術を一生懸命やっているような感じがするんですよ。

○田中委員 どこもそうやわな。

○市橋（肇）委員 だから、もう一つちょっとひねり直さなきゃいけないんじゃないかと。

○金森委員 今、人づくりと言われたけど、やっぱり長いスパンで子供たちの成長を考えていかないと。

○市橋（肇）委員 だから、先ほど先生が言われた過重労働の話もちょっとあったりなんかするんですけど、足らない先生というのは技術・家庭だとか特殊な技能を育成するための先生が足らないということなんですけど、それって本当に今私たちがやっていかなきゃいけないのかどうか。

僕、単純な言い方からすると、理科なんかで、昔はマッチを擦ってガスバーナーに火をつけたりなんかしていたんだけど、今、そんなマッチの擦り方も知りませんよ。必要もないですよ。もうみんなそういう考え方になっている。

だから、事ほどさように、今本当に必要とされる技能とか芸術のセンスは一体何が必要なのかということ、みんなちょっと本当はほかの教科、例えば英語に時間を増やすとか、数学の時間を増やすとかいう話にだんだんできてきているならば、あとIT技術も必要だというふうな話になってきているならば、やっぱり傾斜したりなんかして、ウエートづけをもう一回考え直すべきじゃないか。

○金森委員 私、小学校の小さい学年って教科担任は嫌なんですけど、やっぱりいろんな物差しを担任が持っていないとダメなと思うので。

でも、大きくなってきたら、外部から専門の先生が来て、今日はショパンの何を弾いてあげます、聴かせてあげますとばばばと弾くと、へえーとなるんですね。はあーとか思って。

だから、そういう教科担任制もあるんだったら、外部の先生、技術関係、美術関係とか、すばらしいと思うんですけどね、教育的にも。やっぱりいいものを見せたり、聴かせたり、ここでも町内でやってもらっていますけど、違うとか。それなら免許を持っていないでもいいと。

○市橋（肇）委員 それから、先ほど部活動を外部の人をお願いするという考え方があったじゃないですか。部活動じゃなくて教科も外部の人に、そういう芸術的センスとかそういったものは、そちらのほうで名を上げたような先生に関与してもらおうようにしていったらどうなんですかね。

○金森委員 声楽をやっていた先生は、体育館でノーマイクでばあーと歌う。ほうーと。挨拶ですよ、ただ催物じゃないときに。へえーとなるから。だから、そんな教員がどうのこうのと言っておるよりも、何かそういう来てもらってもいいかな。

○市橋（肇）委員 だから、私たちの頃は、例えば国体選手というとすごいというイメージがあったじゃないですか。ところが、今マスコミから何からで、世界陸上とか何とかって世界、オリンピックという頂点を見てしまっているんですよ。MLB、大谷さん、ああいう頂点を見た人たちが、今さら地道な活動をやるかというか、目標設定が違うんですね。それで、大谷さんがやっているときに目標設定の仕方でもマンドラチャートからやっていくとか、そういう手法でもう来ている、ああいうのなんかはもう完全にいろんな手法なんですよ、いろんなものに取り組む。

そういったところからは、僕は今の先生たちの設定よりは外部の先生からそういうアイデアをもらって、取り入れていただいて、育てるような考え方に変えたほうが僕はいいんじゃないかと思うんですね。

○長屋委員 子供を教えるには教員免許が要るんですね。だから、特別な技能を持っている人については、もちろん教育の中で生かしたいので、県のほうが特別免許状というのを発行して、教えるようにできると、そんなような制度があります。

ただ、技術なら技術にしても、学習指導要領でこれだけのことを教えないかんといい内容があつて、その人が全部本当に教えられるのか。ここは特化してすばらしいんだけど、こっちはちょっと全然専門外でとかになっちゃうと駄目なので。

○金森委員 ALTの先生って、教員免許を持っていないんですか。

○長屋委員 ALTの先生ですか。

○近藤教育委員会主任指導主事 AL Tは授業はやっていないですね。英語の先生が授業をやっています。

○金森委員 ですね。

○近藤教育委員会主任指導主事 補助的に入っている。

○金森委員 そうですね。だから、そういう、自分はできなくても、先生が。ついて、補助的……。

○長屋委員 免許を持っている人についてね。

○金森委員 はい。ということは可能なんです。

○長屋委員 それはできると思います。

○田中委員 一流のものを見せて、お互いに感動するというのはいいよね、子供の教育にね。

○長屋委員 それはできます。

○近藤教育委員会主任指導主事 全部をやるのは難しいですね。時々、体育とかでもトップアスリートの派遣事業とかって、例えば器械運動のプロが跳び箱を教えに来たりとか、そういうことはありますけど。

○田中委員 中学校にやり投げの先生いたやん、女性の人で。

愛知県から来ておった人。運動会するとき、こうやって投げておったじゃん。うちら素人が見てもええなあと思うじゃん。それから、何や知らんロシアか何かでバイオリンを弾く偉い先生がいたやん、あの人も女性やったな。あの人は見なかったけど。上手に使えばいいのにな。

○金森委員 授業というのはできないけど、ある程度ついて進めていけば、苦手な、免許……。ああ、免許を持っていない……。

○田中委員 免許の話になってくるんや。元に戻るんや。

○市橋（肇）委員 だから、そういう免許の種類と、そうじゃない一芸に秀でていくような形からすれば、いわゆる我々義務教育というのは平均の人を上げていくようなところがあるじゃないですか。一方で、世界的なニーズとか何とかになる突拍子もないスーパースターを欲しがるようなところがあるじゃないですか、ノーベル賞にしたって何にしたって。

だから、そこら辺の使い分けをうまく考えていかなきゃいけないんだけど、私たちは今は義務教育のレベルを上げること、そっちのほうに特化しなくちゃいけないんだけど、やっぱり片一方では、世の中のニーズを把握しているならば、やっぱりそういう外部講師とか、外部のセンスを入れながら、それを先生たちも刺激として受け入れて、それをいかに折り込んでいくかということを考えなきゃいけないんじゃないかと。

だから、それは全部の教科についてやる必要はないと思うんですよ。輪之内はここが強いとか、そんなふうに関わり持っていけばいいんじゃないかと。

○長屋委員 できるだけいろんな、そういう何とか事業というのがあるので、そういうのに応募して、どの学校もちょっと積極的に取り入れてやっているの。

ただ、そんなことばかりやっておると、ほかのことができなくなっちゃうので、そういうのも入れながら、授業を進めながらという形になると思うんですけど。本物に触れるのは、やっぱりすばらしいと思うんです。

○市橋（肇）委員 また、今2学期制にしたりなんかしたじゃないですか。そういう意味でも、時間の有効活用、活用すべき時間をどこへ持っていくかということをもう一回考え直したらいいんじゃないかと。

時たま、今日もそこにあったSOSの教育ですか、いじめとか不登校の関係の。今日、新聞を見ていたら、千原ジュニアさんがSOS教育とか、ああいう吉本の芸人さんみたいな人でも自分はいじめられっ子だったとか、不登校だったよということを暴露しながら、自分の体験を披露して話をするとか、そういう話がちょっと載っていたんですけども、今、岐阜県教育委員会としてはSOS教育をやりましょうとか、この間「広報わのうち」にもSOS教育を中学校でやられたとか、そういう話を書いていらっしゃいますけど、子供たちはそういう堅い先生の話より、それはやっぱり吉本から来た彼の話のほうがよっぽどいいと思いますよ。印象に残る。特に、だから本当に不登校の人、それから今ちょっとカットをやろうとしているような人たちに対しては、僕は申し訳ないけど県から来た講師よりもああいう連中、体験記みたいなほうが訴える力があるかもしれないと。そういう意味での外部の人の導入というのは図るべきかなど。

そういう意味で、あれは新聞なんかも取り上げておったんだろう。

○荒川参事兼総務課長 そうですね。

○市橋（肇）委員 というふうにちょっと思いましたけど。そんなのは理想論ばかりで申し訳ないですけど。

○金森委員 でも、金・物というところだけじゃなくて、やっぱり教育委員会、この輪之内の教育の特徴というか、何を大事にしていくかという、じゃあ統合とかでどんなんを大事にしていくかというのも上げていかないとねと。

○荒川参事兼総務課長 ありがとうございます。

なかなか、時間があれば突っ込んだ話も……。

○田中委員 ちょっとやりたいね。

○長屋委員 回数を重ねながら。

○荒川参事兼総務課長 そうですね。要するに、これについてはいろんな角度からやらないとあれだと思いますので、これからもこういった継続審議というかでやればと思います。

続いて、4番、中学生防災士の輪之内町防災士連絡協議会への参画についてということで、これは、ごめんなさい、資料は何にもありません。

危機管理課からですけど、令和4年度末で、いわゆる中学生のときに防災士の資格を取って高校生になった子が、入ってくださいよといって声をかけたら入ってくれましたということ。僕ここの場で報告したかと思うんですが、その人数が令和4年度末で13人、今年に入って、最初から高校生の子に入ったのがもう今大学生になっていますので、全部で今は23人になりました。そのうち本当の今現役の高校生というのは18人、要は5人がもう大学生になっています。

この間、先般、7月30日に、その防災士連絡協議会の訓練、勉強会ということで、そのこの体育館で避難所の設営訓練というのをやりましょう、だから防災士の人もいざとなったら来てもらって、こういうふうに住民の人が避難してきたら、こういう避難所をつくってやりましょうという勉強会をやったんですよ。そうしたら、高校生の子がたしか12人来てくれて、高校生は高校生の子たちでチームをつくって、いろんなパーティションを組み立てたり、そういうことを体験してもらいました。

僕はこれ何が言いたいかというと、これは単なる数字だけの報告です。これを題材に上げた狙いというのは、やはりこういった年代からの防災教育の重要性というのは、やっぱり生きてくるなとか、生かさなにかんなどと思っています。

だから、確かに中学生のカリキュラム、中学校2年生でやっているのは大変だと思います。先生たち、本当にやりくりして、何でこんなことやらないかんのと言うて、本音はそうだと思いますけど、もっと方法があるんやねえかというのはあるんだけど、やっぱりこうやって今となると、この子たちはやっぱりもう防災士という資格を持って、変な話、やっぱりこういった訓練もやっています、勉強もやっていますということで、ある程度誇りを持って、私は輪之内町でこういうことを学んで、例えば大学に行ったときにやっぱり話のあれが違うと思います。

そして、やっぱり防災という一番人が生きる上での根本を学んだというのがあるので、私どもとして、危機管理課としては、この防災教育の重要性をやっぱり今後も教育サイドのほうでも嫌がらずに育てていただいて、その後我々が、行政がそういった受皿でやりますので、お互い連携を取りながらやりたいなという意味で、本日この議題に上げさせていただきました。これは報告です。

続いて、5番目、地域行事への中学生の参画についてということで、1枚ぺらで。

これは、この間の7月末の区長会で、中学校の寸田校長にも来ていただいて、中学校からの提言で、中学生を地域行事にどんどん参画させてくださいということで、地域行事等で、大人とともにイベントや行事を企画・運営する体験を通して、子供の主体性を培い地域への愛着心を育てるというふうに、いろいろと書かれています。

これをやっぱり区長さんにぜひそういうことなのでお願いしたいと。そうしたら、いろいろと質問とかそういうのも出るかなとか思ったら、区長さんたちは物すごい食いつきやったね。本当にそんな地域の子供たちが手伝ってくれるなら、いろんな行事に大人同士でやると、口は出すけど体は動かんとかね、そういった人たちの中で大分苦勞している。だから、これは中学生がこうやって本当に手伝ってくれるなら、こんなありがたいことはないというふうにおっしゃってみえた。

だから、ようやく一応地元の代表である区長さんとこういうパイプができつつあるので、そういうことを大事にしてやっていただけると本当にありがたい。多分、地元の地域の区長さんたちも、それは担い手としてすごい助かるんじゃないかと思います。本当にいい提言をいただいたというふうに区長さんたちもおっしゃってみえたので、これはぜひ継続して、そういうふうにやっていただけるといいかなと思ひまして、題材に上げさせていただきました。

この裏にボランティアパスポート、これは中学校で作ってみえるんやね、これに書いてもらう。最初、こういった話をせずに中学生の子が地域に行ったんだそうです。これを区長さんに出して、区長さん、これ書いてください。何これとなった。この話を聞いて、そうそう、これ持ってきたわとか言ってみえました。話が前後したんですけど。だから、やっぱりようやく地域、そういった場でオーソライズされてきたなということで、いい傾向かなと思います。

○田中委員 数年前からコミュニティ・スクールという、今増田先生が説明されたやつをやっていた。小学校を中心にして地域とというの、3小学校は問題ないわけですよ。それぞれ昔の母校だったりする、親がね。中学校の位置づけが、中学校が母校というの、ぼやっとしてくるんやね、輪之内の中では。困ったなと思って。森さんがそこで頑張っているんだけど、ちょうどこれを出していただいたので、ちょうどええなあと。そっちのほうから、森さんのほうの話でこれ出てきたんだと思うんですけど。中学校が地域と結びつくのに、なかなか、僕、全体の本部長としては、なかなかあそこ難しかったんやけど。

○荒川参事兼総務課長 ああ、そうですか。本部長をやってみえる。

○田中委員 僕がね。連絡協議会か何かの会長をやっておるんだけど。

でも、あそこが上手にいかなくて、取りあえず今年は例の部活を外に出すという仕事があるんだけど、もうちょっと地域とのやつを出してきていただいたなという話です。ありがたいことです。

○荒川参事兼総務課長 区長会で森会長がこういう話題を出したいけどいいと、それで説明には寸田校長がはせ参じるとおっしゃってみえるけど、そういうのもいいかねと、こう言って。どんどんやってくださいというふうに、時間を取ってやらせていただいたんですけどね。

○田中委員 ちょうど中学校としてふさわしい。

○荒川参事兼総務課長　そして、中学校の子は男の子だったら力もあるし、よく動くし、力仕事、よく間に合うし。

○市橋（肇）委員　4番目にある防災訓練等も、さっきの防災士の関連もあって、主体的に資格を持っていたら動いてもらえば一番いいと思います。

○田中委員　僕ら中学校の2年生のときに、たしか伊勢湾台風やったと思うんですよ。一家に1人出てこいというので、僕らの同級生で出ているやつがおるもんね、おまえ、行ってこいと言われて。土のうを積み、福東の塩喰の切れかかったところ。中学生、よう間に合うよ、上手に使えば。

○市橋（肇）委員　もう体はね。

○田中委員　体は大人やで。

○長屋委員　これやっぱりポイントは、真ん中のちょっと上のところに太い字で書いてありますけど、ただのお手伝いではなくということですね。参画というところがポイントなので、そこを絶対忘れないようにしないと、ただのお手伝いだとやらされ感覚になって、嫌々参加になっていくので、それは絶対に避けたいという、主体性ということ。

○田中委員　話が、先生、飛んで悪いけど、浜田先生に聞いたんやけど、中学校で制服を自分たで考えさせるんか、ええことじゃんね、あれ。長いことかかってもええで、何年かかってもええで、自分たちで結論を出させると、先生が決めたんじゃないで、人が決めたんじゃないで、自分たちで決めたという実績をつくるといいなと。どういう議論がみんな出てくるし、初めは行き違いがあると思うけど、そのうちにだんだん熟成するような気がして、中学校にとってええテーマやなど。あまり急いで結論を出さんほうがええような気がする。

○市橋（肇）委員　僕はこういうのを見たときに、中学生は地域行事に参画するというんだけど、中学生の親はちゃんと地域行事に参画するかというのは、僕は言いたいね。

○田中委員　まあまあ、ここから。森さんが、こういうのを出してもええですかと。ここから始まったんやで、森さん、今ちょうど油が乗っておるで。

○市橋（肇）委員　僕は今個人的に言うと、協働だとか共有意識って、もう中学生の人より、その親のほうが問題じゃないかと僕は思います、地域活動において。だから、親が率先しないから中学生もやらないんですよ。

　輪之内中学校って僕は物すごいなと思ったのは、黙働とか何とかとやっているじゃないですか。ほかの学校なんかは、上げ膳据え膳で、そんな自分らで掃除して黙ってやりましょうだか何とかなんて、僕はこの輪之内ってすごいなと思いました。あんなことをやっている、いまだに。

○田中委員　4校ともやっておるね、黙働活動、一生懸命。

○市橋（肇）委員 だから、よく年末の大掃除とか何とかって、よく学校なんか下手なところで、窓拭きとか何とかをやると落ちたりなんかすると危ないからというので親が来てやっていたりとか、そういうのを思うと、生徒にやらせるということが最近なくなってきて、とにかく上げ膳据え膳で、準備してやるのが親の仕事だったり、ここでもちょっとあるんだけど、地域の仕事だったりなんかするんじゃないかと。家庭教育というのが一番落ちているから、親がそういう意識がないから、子供にもそういう意識が及ばないんだろうというふうに、僕はちょっと思いますよ。

僕は一番働いてほしいのは、中学生よりも地域のそこの親たちにもっと一緒にやってくれと言いたいですね。そう思わない。

その親を見ておって子供も、バーベキューを一緒にやりましょうなんていって、我々ある程度の人の幹事はやっているとする、もうその親に見習って、もらいに来るだけ。自分で何かやりますよ、代わりにここを担っていきますよとか、そういう積極性はあまりないから、逆に昔だったら、こっちへ来て手伝えやと言って、無理やりでも手伝わせて参加させていくという、今地域のリーダーもいなくなっているね。あまり関与しないようになっている。

それに比べると、中学校はフェスティバルだとか、いろんところで出店を出したり、いろんなことをやっているじゃないですか。僕は輪之内中学校でびっくりしたね。ええっ、こんな意識が高いんだ、先生たちのおかげだなと。あの親たち、参画していますか。来ていないんじゃない、親が。そっちが問題だと僕は思うけど。

○浜田教育委員会主幹 中学校の立場としては、やはりこの場で企画から参画させてもらって、ここでいい思いをすると、自分たちが。何かやっぱり今の子って、自分たちの力で世の中を変えられるというふうに思っていない、それは無理やろうと日本人の子は思うので。

○田中委員 日本人の子。

○浜田教育委員会主幹 はい。結構、先進国の子たちは自分の力で世の中を変えられるというパーセンテージが高いんですけど、日本の子は極端に少ないので。

やっぱり子供たちが、この場で何か自分たちがやって、すごい思いをしたと、お礼を言われたりだとか、こういう世の中、町を変えられたと思えば、できたら高校、大学ももう一回行こうぜというふうに子供たち同士で言って、やっぱり持続可能な、よくあるPTA会長が替わったらもう一気に沈むとか、そういうことではなくて、子供が主体となって今後もいけるような、多分寸田校長先生もそんな思いでぜひぜひ企画からやらせてほしいというふうな思いで見えると思うので。

○市橋（肇）委員 こういうふうな形でやられたら逆に突き上げる格好になるので、親たちにもいい刺激だと思います。

○田中委員 市橋さん、びっくりする話をしてあげる。

老人クラブで僕が副会長をやっているときに、雑巾を会員1枚ずつ集める、作ってきなさい、手仕事になる。実際上はコンビニで買ってくるんだけど、百均で。やる。かなりの人が作ってくるんです。

そういうことをやっていたら、地区の会長さんクラスの人を集めて会議でやっていたら、そんなこと、掃除みたいなのは今業者にやらせるんやろう、雑巾みたいなのを持っていっても役に立たへんで、終えたらどうやというて言う人がおって、僕、立場を利用して、あれはちゃんと黙働とかいって一生懸命やって使っておるので、大事やでと言った。老人クラブやよ。今進んでおるので、みんなそんなもんは使わへんやろうと。持っていくと、大事に、先生、使っておるのという、使っておると言わせるので、使っておるんだろうね。

○市橋（肇）委員 ありがたいとね。

○田中委員 あれはええことだよ。子供が一生懸命こうやって。多少けがをするかもしれんけど、なるたけけがをせんように。あれはええ、子供たち、一生懸命集中するええ姿だよね。

○市橋（肇）委員 だから、よくあるんですけど、企業なんかでも新入社員に、まず最初入ってきたら社員教育の中でトイレ掃除から始める。それから、ある一定の地域をそれぞれの個人に与えて、その花壇とか、そういう場内の美化に努めるところを負担させるとか、そういう話もやったりなんかするんですよね。そういうのに似ているといえば似ているんですけどね。

再教育をし直さなきゃいけない。社会の中の企業なんかでも、学校教育から来たから、それですぐ役に立つなんてあまり思っていないで、それぞれの会社なりに再教育し直そうという考え方をしていますよね。知識もそうです、知識教育も全て。

だから、そういうところも逆にあるんだけど、そこまで行かなくてもいいけど、少なくとも地域では、やっぱり地域の今のコミュニティ・スクールだとか協議会の面々に対しては、ある程度中学生の方が貢献するということは非常にいいことだと思いますけどね。そういうことを通じてリーダーシップだとか、そういうことも学べるんじゃないかと思うんですよね。

○金森委員 リーダーシップ。主体性とか。

○市橋（肇）委員 昔は餓鬼大将がいたけど、今そういうのがいないから、同年同一の力量の者同士で集まってわいわいがやがや遊んでいるというかね、リーダーらしいリーダーが育っていないところがちょっとありますよね。昔、地域地域に餓鬼大将がいて、それが一族郎党、それこそ幼い子まで引き連れて、みんないいこと悪いこと教育したところがあるんですけどね。そういう中で、人のリードをしていくということが何が大事かということをよくつかみ取っている、肌で感じているというところがあつたやに思うんですけど。そういうのは今ちょっとないですね。もうみんなゲームをやっていますからね、仕方がないと思います。

○金森委員 地域で遊ばないですから。遊べないというかね。

○市橋（肇）委員 唯一、先ほど言ったクラブ活動だとかああいったところで、そういうのを勉強しているというふうになったところですよ。

○荒川参事兼総務課長 それなら、時間もあれでございしますが、ありがとうございます。

それで、先ほどのこれからの小・中学校の在り方について継続審議とかでありますので、原点に帰ると、この総合教育会議というのは、法律が改正されてこういう会議を設けなさいと、今まで教育関係は教育関係で独立機関というふうなところだったんですけど、やっぱり大津のいじめから、法を変えて、こういうふうになったと。

例えば次回ですね、いつもは教育課のほうからこういった題材が出ますというふうなんですけど、例えば子供たちにとって行政が、例えばこういう情報が欲しい、こういうことについて教えてほしいとか、そういうことがあればまた準備しますので、やっぱり双方向でやらないとフェアじゃないでしょう。いつも何かこの会議で何か……。

○田中委員 いやいや主催は総務課でしょう。教育課ではないので、こっちも。

○荒川参事兼総務課長 いつも題材を出してもらっておったので申し訳ない、それで今回こういった防災士の関係とか、先ほど地域の区長会の話とかを出したんですけど、そういうことで、子供に対して資するいい活動とか方向性ということで、何かこういうことについて聞きたいわということがあれば、おっしゃっていただければ次回用意しますので、今日この場ですぐ出せといってもなかなかあれですので、また考えておいてください。

そういうこととありますが、そのほかあと、そんなに時間あれですが、皆さん、よろしゅうございますか。これだけは言っておきたいというような。

○田中委員 新しい町長に言っておきたいと。

○朝倉委員 さっき地域の協力やとか行動がという話、これも保育士さんの面談でちょっと言われ、それこそ町長頼みますと言われたんですけど、今こども園の中の何が大変と聞いたら、これもみんなそろって草刈り、草むしりが大変やと。子供らが寝ておる間に、みんな職員が、先生方が外へ出て、こうやってやったりとか、何かどこかの園長先生がこうやってやっておるとか、そういう話で、それはそれで先生らがやられるのはいいけれども、例えば保護者に頼むとか、地域の人に頼むとかという、頼んでいいなら頼むよという、私から頼むよということで先生方に言ったんですけど。みんな子供よりも草むしりが大変やと。ああ、そうなんやと思っ
てね。

それこそ区長会あたりで、区長さん方に順番でちょっと、夏場だけですのでね、夏場だけちょっと草刈りに行ったって、草むしりに行ったってと。またそれをあまり言うと、いやそれは職員さんのやることじゃないのとか、役場がやることじゃないのとかという声が出るのも事実

らしいです。

ですから、なかなか本当に誰がどういうふうに、僕はやっぱりこの先のこども園なんていうのは、子供なんていうのは、まさにこれだけ少なくなってきた、地域で育てていかないといけないので、いやそれは先生がやるでしょうとか、役場がやるんでしょうと言われてしまうと、本当は誰が責任を持ってやっていくのかなとなると、いろいろ考えるところがあります。

○田中委員 一番大事なのは、町長さん自ら保育士の、保育教諭の先生方に相対して寄り添っていただけるのが一番うれしいんだって。

○朝倉委員 ただ、なかなか、じゃあお手伝い、先生方がやらなくてもいいように、みんなでやりますと言い切れないのでね。それはそれでちょっと弱いんですけど。

○田中委員 町長さんが寄り添うんですよ。

○朝倉委員 何となく、やっぱり、1人、2人じゃないですもん、全部、10人ぐらい面談をやったんですけど、10人が10人、草むしりが大変……。

○田中委員 今、草むしり、一番大事やと思うよ。

○朝倉委員 狭いかなと思ったんですけど、意外と広いらしいですね、やっぱり。

○田中委員 先生、佐賀県に行くと、1つの村の中に小学生、中学生の数が20軒に1人ぐらいらしい。僕、河原八島ですけど、四十五、六軒に十五、六人、だから3軒に1人ぐらいです。3軒に1人ぐらいやと、小学校のことだったら、それなら、おい、みんな協力してやってくれと、こうなる社会やね。仲間でもそうやと思うんです。それが、20軒に1人やと、それは特殊な話やなど。あんたら解決してくれと。

今は、多分どこの区へ行っても、輪之内町やったら、小学校の子と中学校の子とこども園の子と、それならやってやらないかんがとなるよね、話が。草刈りという、具体的になってくると別やけれども、限りある予算の中で優先順位というたら、そんなの小学校を1番でまずやって、それからこっちという話になってくるんやね。これは3軒に1人ぐらいと。

佐賀県へ行くと、20軒に1人ぐらいしかいない。そうなるよ、こんな総合教育会議もくそもあらへん、悪いけど。やっておいてくれと。

○市橋（肇）委員 田中委員、今それ大藪は3軒に1軒かもしれへんけど、うちらは全然ですよ。

○田中委員 あかん。

○市橋（肇）委員 駄目ですよ。今、100軒ぐらいあるうちで小学生が何人いると思いますか。一桁ですよ。

○田中委員 佐賀県に近いじゃん。

○市橋（肇）委員 だから、地域によってですよ。

○田中委員 結論は、今のときに地域と仲よくしていかなと、20軒に1人になってからでは遅い

と。今の森さんのこういう話だとか……。

○市橋（肇）委員 いや、だから私はちょっと思っているんですけど、今、森さんとか何とかと、行政のほうで区長とか何とかという区も、もうちょっと単位を考え直してほしいと思いますね。

今ニーズからいって、それぞれの区って何名抱えてどういうふうに組織しているんですか。多いところもあれば少ない、過疎みたいになっているところもあるじゃないですか。だから、いつもリニューアルしてほしいと思うんですよ。

だから、ある程度の規模というのは、何人おるからこのくらいの感じで浸透すればいいとか、フィードバックしなくちゃいけない、それからみんなの民意を上げてもらわなきゃいけないということを常に組織というのにはちょっと見ておるべきだと思います。

だから、学校の今父兄なんていうのは、ごく一部の人の話になっちゃっていますよ、地域によっては。

○長屋委員 そうなんですよね。本当にそうなんです。

○市橋（肇）委員 そうですよ。だからニーズを感じないですよ。

○荒川参事兼総務課長 さっきおっしゃった一つの方策として、前も養老町なんかでもあれなんだけど、一つの今既存の区とかという、やっぱり昔からの結びつきとかいうのがあるんだけど、やっぱり例えば我々だったら大吉、松内、そして海松を含んで昔の三郷と言われた地区とか、そういうふうにならちょっと広域化、可能な限り、やっぱりスケールメリットを生かして、例えば各区で1人ずつ役員を出すじゃないですか。でも、例えば3つあって、人数規模でやったら、普通なら今までやったら3人出さなあかんのをじゃあ1人でいいよとか2人でいいよといえ、ほかに人を回せるし、だからそういった工夫というか、そういうことも変則的なふうで、やっぱり広域化というのを常に考えていかないと、そういった昔のような区でがちがちにやってしまうというのは、もうちょっと変化させないかなとは思いますがね。

○市橋（肇）委員 荒川さんもおっしゃっていた消防団の組織だって、今、区を反映した形になっていないじゃないですか。

○荒川参事兼総務課長 そうです。

○市橋（肇）委員 だから、もうみんな今、僕は過渡期だと思うんですよ。だから、どんな単位で運営していくべきかということをやっと、伝統、保守的な考え方も大事なところもあるんですけど、やっぱりちょっといろんな規模、さっきの小学校でも、福東小学校が少なくなっている、仁木小学校が少なくなっている、大藪は多いよと、そういったような背景もあつたりなんかして、ニーズも変わってくるし。

あと、僕、出生率だけを見て今やっているんだけど、学校の今在り方で、外国人というのが増えてきているじゃないですか。流動性のあること。例えば転勤とかあれで、輪之内には、例

えばさっきちょっと金森委員がおっしゃっていたんですけど、桑名辺りだったら人口の子供のニーズだけじゃなくて流動性があると思うんですよ。例えば主要な都市の学校だと、3月、4月にメンバーが、例えば五、六クラスあっても1クラスぐらい変わっちゃうと。それは何でだといったら、転勤してくる、それから転勤して去っていくという流動性もあったりする都市なんかがありますよね。そういうのに比べると、うちってあまり流動性がないというところがちょっとあるんだろうと思うんですよ。むしろ、だから減少減少という考え方になっちゃっているんだと思うんですけど。そういう中で、外国人の流動性は今どうなっているのか。大分増えてきた。

○田中委員 この間、岐阜新聞を見ておったら、輪之内は外国人の割合が4.何%だったね。それで、岐阜県の中では、一番多いのは10%ぐらいだけど、可児か何か、かなり高いんだよね。

○荒川参事兼総務課長 4番目。

○田中委員 4番目。

○荒川参事兼総務課長 外国人の県の比率は。

○田中委員 外国人対応というのを教育委員会も考えなあかんし、町全体も考えないと、外国人は、なるだけ相互理解をしていかなと、そうでなくても文化が違うので、相互理解をいかなと、ちょっと処理水の話は置いておいて、人と人としたときに、外国人というのをやっぱり受け入れていく方向で考えないと、知らん知らんではいかなので、政府も人口問題だ人口問題で外国人を入れりゃあいいんだで。

○荒川参事兼総務課長 そう、僕もそう思います。

○田中委員 産めよ増やせよという話ではないので、優秀な人を連れてくればいいんですよ。

○荒川参事兼総務課長 そうそう、そう思います。

○田中委員 これと上手に輪之内のコミュニティーをつくっていくと。あの人ら、稼ぎに来るんですよなくて、輪之内のコミュニティーに参画してもらって、よりよいまちづくりの方向で政策とやっていかなと。例えば教育にしろ、あるいは祭りのときとか、村の付き合いのときでも、なるだけ来ていただくように、ふれあいフェスタとか、文化祭とか、ああいうときもなるだけ来てもらう……。

○朝倉委員 私も、さっきの中学生じゃないですけど、本当に外国人の人に参画してもらわないと、本当に。

○田中委員 そう。成人式のときも招待状を出すけど、ちょろちょろしか来てくれへんやんね。なるだけ来てもらうように。

○荒川参事兼総務課長 中にいますもんね、ちゃんと外国人の人。

○田中委員 溶け込んで、なるだけ、それなら輪之内、こんなええところなら住んでみようかと。

○市橋（肇）委員 そう、そうなんですよ。

○田中委員 これは大変やよ、異文化を理解するのは、ヨーロッパを見ておると大変だということとは分かるけど、これは避けて通れんので、日本はもう門戸を開くより道がないので、岸田文雄さんと安倍晋三さんはどう考えてみえるか知らんけど、好むと好まざるとに関わらず、流れはこうなんやで、受け入れていかんと、うちら小さなところはプラスで行かんと。

○荒川参事兼総務課長 本当にそう思います。

○田中委員 外国人をこの。

○荒川参事兼総務課長 だから、本当に僕は、極端ではないけれども、例えば輪之内町役場の職員だって、大学の優秀な外国人の留学生の人に本当に例えばインターンなんかを使って来てもらって、こういういいところだよというようなどころまで一回やってみるのもあれかなと。

○田中委員 うちの娘、某大学の事務をやっているんやけど、英語だよ。だんだん外国人が来るので、学生。

○市橋（肇）委員 ニーズが出てきて。

○田中委員 うん。そうすると、こういうところも外国語対応をしていかんと、全員がしゃべる必要はないので、入社試験のときには英語の試験をやる必要はないので、誰かプロフェッショナル1人を、ネイティブがおって、専属で翻訳するとか、そんなもん英語だけじゃないので、世の中は。

教育委員会で手を焼いておるの、英語じゃないよね。ほかの外国の人やね。いろんな言葉をやっついていかないと。

○市橋（肇）委員 今はベトナム人が増えています。

○田中委員 東大藪にネパール、ネパールやと思ったな。

ちょっと外国対応を。

○市橋（肇）委員 そうですよ。

大垣なんかも前、イビデンさんとかああいうところにブラジル人が多かったですけど、それで大垣市民病院とか何とかでもポルトガル語を話せる人を受付に配置したり何かしておったじゃないですか。

○田中委員 これ思ったのがね、どこかの新書、新潮新書か何かで「フィリピンパブ嬢の経済学」という本と「フィリピンパブ嬢の社会学」とか何とかという本を書いた人がおって、中部大学の学生さん、結婚したんだ。そのときに、結婚したので、それじゃあお産についていくと。ついていくんだけど、やれ母子健康手帳とは何かとか、そこから分からへん。日本は何となく理解しているでしょう。何となく理解しておって、ああこのことかと分かるんだけど、そういうことの世の中の存在とか必要性とかも感じていない。向こうは知らない。そこから始めない

かので、事務手続のやつを英語で書くとか、そのレベルではない。その元を理解してもらわんと、外国とやっていけんと。

○市橋（肇）委員 でも、今、マイナカードとか何とかで、健康保険だとか何とか、あと会社なんかでも健康保険組合とかいろんなところで、それこそマイナカードを作ってひもつきにしたり、いろんなことをしてくる場合が出てくるんじゃないですか。

今ちょっとパーセンテージでいったら四、五%だと言われたのは、20人に1人だということでしょう、外国の子供たち。

○田中委員 そうそう。人口でやで。

○市橋（肇）委員 20人に1人といったら、すごい割合ですよ。

○田中委員 今度またヨロズとかいう大きな会社があると、住民は地元の雇用の場が生まれるとみんな思う。違う違う、連れてくるで、いっぱい来るので。

○市橋（肇）委員 でも、この間、募集を出したやつが新聞折り込みで入っている。ただ、何人とは書いていなかった。それから、どんな規模で来るかは分からない。でも、あれはやっぱりほかにあったところをリニューアルしてここへ来て、もう一度再整備するんだから、当然連れてきますよ。

○田中委員 何で。あの土地の面積にね、あそこで3人働くということはないと思うよ。

○市橋（肇）委員 いやいや、新人として採用する人間はそのくらいでいいという感じかもしれませんよ。

○田中委員 最初はそうやけど、そんな向こうの遠くから通えへんで、だんだん増えてくる。

○市橋（肇）委員 いやいや、来ると思いますよ。キーパーソンがみんな来るんですよ、当然。そして、そういう人たちを育成するんですよ。だけど、それは人数をそんなにたくさん採りませんよ。だって、合理化して、少人数でやろうとして、最新鋭の設備を持ってくるんだから、そんなもん前と同じようなことをやるわけがない。だから、採用人数は少ないですよ、本当に。

○荒川参事兼総務課長 ネットで出ていますよ、具体的な人数まで。やっぱり最初ですから少ないです。

○田中委員 いずれにしたって外国人が増える傾向にあるので、輪之内は。これを後ろ向きにしてはいかんです。

○荒川参事兼総務課長 そうだね。これは自然な流れでしょうね。

では、時間も参りましたので、本日の会議はこれで終わらせていただきます。どうもありがとうございました。

(午後9時10分 閉会)